

(目的) 近年、家庭におけるエネルギー消費原単位は著増傾向を示しており、中でも家庭電化率の上昇が今後も見込まれている。また、人々のライフスタイルの変化に伴い、家庭電化に対する生活者のニーズや家電機器の実態も大きく変化しつつある。このような背景から電力会社としても生活の合理化、快適化に役立つ家電機器について機能や電力特性を調査し、生活実態に関する調査結果を含めて機器の省エネルギーと上手な使い方についての提案を行うことが必要となってきた。

(方法) 前報で報告した生活実態に関する調査結果および電気ジャー炊飯器の基本特性結果をもとに ①機器の選び方 ②省エネルギーとなる使い方 についての評価を行った。

(結果)

・ 機器の選び方

同量の米を炊飯する場合、大容量の炊飯器の方が消費電力及び消費電力量が大きいいため、1回に炊く米の量を目安に機器を選定する。

・ 省エネルギーとなる使い方

7時間以上保温すると炊飯1回分以上の消費電力量(約200Wh)となるが、ご飯を冷凍庫で保存したのち電子レンジで温め直す方法をとると味も変わらず消費電力量は約60Whで済むことがわかった。